



米荷受け



10月上旬～11月上旬、カントリーエレベーターで組合員の生産した米の荷受けを行いました。新採用職員の業務は、受付や伝票処理、品質の検査等でした。

カントリーエレベーターで保管されたお米は、農家が保有米で引き取るほか、グル米四季菜館等で販売され、学校給食（品種：特裁ゆめまつり）としても提供されて

います。また、JAたかさきは、11月12日にNPO法人ラップルティとその運営する子ども食堂への食材提供に関する協定書の締結式を行いました。その第一段の食材提供として、お米30kgが子ども食堂に寄贈されました。このお米もカントリーで荷受けをされたお米です。このように、JAたかさきのお米は、様々な形で多くの方々に提供されています。



おまけ

右の写真は、飼料用米の刈取りの様子です。主食用米（人が食べるお米のこと）の消費は、年々減少していることに加え、新型コロナウイルスの影響により外食の需要も落ち込んでいます。そんな現況の中、主食用米を大量に生産した場合、今現在よりも更に米価



が下落してしまいます。そのため、飼料業界等が求める米需要に応えることができ、農家の安定した収入が見込まれる飼料用米への転換が期待されています。

ちなみに、主食用米はふるい目（網のようなもの）を通らなかったものが使用される一方で、飼料用米はふるい目を通った小さな粒も含め、収穫されたすべてのお米が飼料として使用されるそうです。